

北齋を魅了した天舞う瑞獣

～龍・鳳凰～

2026年1月24日（土）～3月29日（日）



この度北齋館では、企画展「北齋を魅了した天舞う瑞獣 一龍・鳳凰一」展を開催いたします。

瑞獣とは、めでたいことの兆しとして現れるとされる特別な動物を指します。北齋は、植物や動物、建築、風景など、現実にある身近なものを写實的に写し取ることにも力を入れた人物ですが、鳳凰や龍など、伝説や想像上の世界を描くという力にも長けた人物でした。この展覧会では、北齋が描く壮大な龍、鳳凰の世界をお楽しみいただけます。

北齋最晩年期の傑作

肉筆掛軸「富士越龍」

聳える霊峰富士を超え、天高く舞い上がる1匹の龍。大注目の北齋最晩年期の傑作を公開します。

| 主な展示作品・龍図 |



『北斎漫画』より さまざまな龍の姿（北斎館所蔵）

さまざまな龍の姿

「龍」といってもその種類や姿は様々です。北斎は、代表作である『北斎漫画』や『富嶽百景』の中に、「応龍」や「雨龍」など小さなものから大きなものまでさまざまな龍を描いています。北斎の知識と想像力もうかがうことができる作品の数々をご覧ください。



『北斎漫画』より ヤマタノオロチなど（北斎館所蔵）

物語に登場する龍の姿を描く

北斎は伝説や物語、神話の世界を描くことにも力を入れました。本図はそのうちの一つで、中央上部には、ヤマタノオロチ伝説に登場する一コマも描かれています。巨大な龍で描かれたヤマタノオロチとそれに立ち向かうスサノオ、両者の間には8つの巨大な盃に入った「八塩折の酒」が並べられており、物語のクライマックスを想像させます。北斎の日本の古事古典への関心の深さも読み取れます。



『北越奇談』より 竜巻に遭遇する作者崑崙（北斎館所蔵）

龍との対峙、対決！

江戸時代の人々が体験した話や、伝承、逸話などをもとにした作品もご紹介します。本図は、新潟の橋崑崙による随筆集をもとにした作品『北越奇談』で、北斎が挿絵を手がけたものです。海上で竜巻に遭遇した崑崙が、雲間から除く竜巻の主と対峙する場面。臨場感あふれる構図と雲や波の迫力のある描写に注目です。

| 主な展示作品・鳳凰図 |



肉筆画掛軸

岩松院所蔵

「岩松院天井絵下絵」

北斎と小布施をつなぐ資料も本展覧会でご紹介。本図もそのうちの一つで、岩松院の天井絵のために北斎が描いた肉筆の下絵です。晩年の北斎を知る上で貴重な資料となっています。

「岩松院天井絵鳳凰図下絵」（岩松院所蔵）



「白鳳」

こちらは北斎による絵手本『絵本彩色通』の中の一図。本作は絵を志す人のために作られた、いわば「絵の教科書」です。本展では北斎が伝授する鳳凰の描き方や、さまざまな種類の「瑞獣」もご紹介します。

『絵本彩色通』より 「白鳳」（北斎館所蔵）

| 開催概要 |

展覧会名：北斎を魅了した天舞う瑞獣 一龍・鳳凰—
開催日：2026年1月24日（土）～3月29日（日）
会場：北斎館（長野県上高井郡小布施町小布施485）
入館料：大人1200円／高校生・大学生500円／小中学生300円
開館時間：9時～17時（最終入館16時半）
休館日：会期中無休

○ プレス・広報ご担当の方へ

プレスリリース

北斎館は2026年に開館50年を迎えます。
北斎館公式サイトでは多国語対応を開始し、
プレスの方へ（プレスリリース）ページでは、
様々な活動を発信しています。



プレスリリース

50周年記念特設サイト

50周年事業の詳細、今後の予定については、
ぜひ、50周年特設サイトをご覧ください。
取材等のお問い合わせをお待ちしております。



50周年特設サイト



お問い合わせ先

一般財団法人 北斎館（広報：飯塚）

〒381-0201 長野県上高井郡小布施町大字小布施485

Tel: 026-247-5206 Fax: 026-247-6188 Mail: pr@hokusai-kan.com



hokusai-kan.com

